

答礼人形「ミス徳島」に関する 米国ノースウェスト芸術文化博物館所蔵資料

大原賢二^{1,2}・長谷川賢二¹

[Kenji Ôhara^{1,2} and Kenji Hasegawa¹ : Relevant documents on Miss Tokushima, one of the Japanese Doll Ambassadors in 1927, owned by the Northwest Museum of Arts & Culture, in Spokane, Washington, U. S. A.]

はじめに

本稿は、アメリカ合衆国ワシントン州スポケーン市にあるノースウェスト芸術文化博物館(Northwest Museum of Arts & Culture, 以下では公式の略称である MAC と表記する) が所蔵する日本人形「ミス徳島」(図 1) に関する資料を紹介することを目的としている。

本文に先立ち、この日本人形に関する大まかな歴史的経緯や上記の資料を知り得た事情について述べておこう。

そもそもの起点は、1927 年(昭和 2)に遡る。当時、悪化しつつあった日米関係を憂慮した宣教師シドニー・ルイス・ギューリックと実業家洪沢栄一を中心として、両国間で友情の人形交流が行われた。米国から日本に贈られた人形は、全米から市民の善意によって集められたもので、約 12,000 体あった。これらは「青い目の人形」と呼ばれ、全国の小学校や幼稚園に配布された。一方、「青い目の人形」への返礼の意味を込めて、子どもたちの募金等によって市松人形が制作され、日本から米国に向けて送り出された。これらを答礼人形と呼び、日本、道府県、大都市、植民地等の代表として、「ミス大日本」以下、58 体あった。「ミス徳島」も、徳島県の代表として、その中に含まれていた。これらは、首都ワシントンや各州に原則として 1 体ずつ配布され、博物館や美術館等に収蔵された。

「青い目の人形」も答礼人形も、不幸な戦争の時代を経て、すべてが現存しているわけではない。例えば、前者については、全国に 330 余体が残るだけである。徳島県に配布されたのは 150 余体あったというが、現在は神山町神領小学校に残るアリスが 1 体あるだけである。答礼人形については、「ミス徳島」を含む 44 体が知られてきた(高岡, 2004; 是澤, 2000; 答礼人形「ミス三重」の里帰りを実現させる会編, 2009; 針谷, 2001; アリス里帰り推進委員会編, 1991; 原田, 2009; 徳島平和ミュージアムプロジェクト実行委員会編, 2010)が、その後、米国においてさらに 3 体が発見され¹⁾、現在では 47 体の現存が確認されている。

「ミス徳島」については、MAC の前身である東部ワシントン州歴史協会(Eastern Washington State Historical Society, 以下「協会」とする)博物館に収蔵されて以来、館名の変更はあつ

2012 年 2 月 16 日受付, 2 月 28 日受理。

¹ 徳島県立博物館, 〒770-8070 徳島市八万町文化の森総合公園. Tokushima Prefectural Museum, Bunka-no-Mori Park, Tokushima 770-8070, Japan.

² 現住所, 〒770-8041 徳島市上八万町西山 1023. Nishiyama1023, Tokushima 770-8070, Japan.

たものの、今日まで一貫して同じ博物館で保管されてきた。同地にある武庫川女子大学アメリカ分校（ムコガワ・フォート・ライト・インスティテュート）のひな祭りの際に貸出・公開されることが定例化しており、学生やスポケン市民らに親しまれている（高岡，2004）。

ところで、2010年7月～2011年3月、徳島県立博物館を中心に組織された徳島平和ミュージアムプロジェクト実行委員会は、「ミス徳島」の里帰り及び展示、調査・修復等を中心として「平成22年度文化庁美術館・歴史博物館活動基盤整備支援事業 徳島平和ミュージアムプロジェクト」を実施した（徳島平和ミュージアムプロジェクト実行委員会編，2010，2011）。

事業は「ミス徳島」のMACへの返納をもって終了したが、このときに点検・搬送のために来日したMACのバレリー・ウォール氏とともに、実行委員会会長であった大原が渡米した。その際、MACから「ミス徳島」の収蔵に関する文書（書簡及び議事録）11点（うち1点にはキャプション原稿2枚が付属している）、登録カード、新聞記事各1点といった資料（複写物）の提供を受けた。本来なら、里帰り以前にこれらの資料を調査するべきであったが、資金や時間の制約の中でかなわなかった。

これらの資料は歴史的な文書といえるが、日本において、少なくとも「ミス徳島」と縁のある徳島県では、筆者らの知りうる限り未紹介と思われる。とくに書簡からは、ギューリックが重要な役割を務めた世界児童親善会（Committee on World Friendship Among Children，以下「親善会」とする）が答礼人形の配布にあたって行った受け入れ先との連絡内容等が知られ、興味深い。「ミス徳島」の協会博物館への収蔵の具体的な事情が分かり、価値の高い資料であると判断できることから、紹介の機会をもつこととした。

以下では、「ミス徳島」を収蔵しているMACの概略を紹介した上で、資料について述べていくことにしたい。

ノースウェスト芸術文化博物館（MAC）

MACが所在するスポケン市は、日本人には馴染みが薄いですが、ワシントン州東部に位置する人口20万人弱の都市で、スポケン郡の郡庁所在地でもある。

MACについては、ホームページ（<http://www.northwestmuseum.org/>）に大まかな情報が示されているが、筆者らが直接見聞したことも含めて以下に略述する。

MACは協会が運営しており、この形態は「ミス徳島」が受け入れられた1920年代と同じである。協会の設立は1916年で、米国北東部ではもっとも古い文化団体の一つであるという。次節で取り上げる資料2によると、博物館は1917年に設置されたようである。

MACでは、先住民等の文化、地域史、美術を主たるテーマとしたコレクションを所蔵しており、展示、教育活動、各種のイベントが行われている。展示室や喫茶店、ミュージアムショップ、教育センター等が主な施設である（図2）。また、敷地内には、歴史的な建造物として保存・活用されているキャンベル邸（Campbell House）などもある（図3）。

キャンベル邸は、もとは鉱山実業家だったキャンベル家のもので、1898年に建てられた。1924年、ヘレン・キャンベルが母であるグレース・キャンベルを記念して協会に寄贈し、その後は歴史及び美術に関する展示を行う地域博物館（community museum）として利用され

た。1960年、博物館の新しい施設が完成してからは、原状への復旧がなされ、現在は19～20世紀の転換期における生活を伝える住宅博物館として活用されている。このような経緯を踏まえると、キャンベル邸はMACの歴史の中で重要な意味をもつ施設といえる。

MACは、次節で紹介する資料12により、1920年代には正式には「東部ワシントン州歴史協会博物館」と称したことが知られるが、一方で、資料1・13によると、グレース・キャンベル記念博物館ないしはキャンベル博物館とされることもあったようである。キャンベル邸を博物館施設として転用していたことに由来すると理解できる。また、親善会からの書簡では、Public Museumと記されることが多く、公的性格の強い博物館でもあったといえるだろう（資料2など）。

なお、現在の館名になる以前、少なくとも1990年代にはチニー・コールズ博物館(Cheney Cowles Museum)と称していた(高岡, 2004)。協会博物館からこの名称に変更された時期については未確認である。

MAC所蔵の「ミス徳島」関係資料

では、資料の具体的な紹介に移ろう。これらは「ミス徳島」の受け入れに関するものとして一括してファイリングされ、キャビネットに収納されている(図4)。

以下において順に内容を紹介するが、書簡と登録カードについては、可能な限り詳細な内容(ただし、全訳ではない)と複写物の画像を示すよう努めた。他の資料及び資料8に付属するキャプション原稿については、簡単なコメント及び画像だけにとどめた。

資料1 1928年7月12日付け書簡(図5)

- (1) 差出者 メアリー・C・モファット(親善会)
- (2) 宛 先 グレース・キャンベル記念博物館学芸員
- (3) 内 容

1927年12月に届いた答礼人形58体について、アメリカ各地を巡回した後、博物館(できればチルドレンズ・ミュージアムまたは子どもがよく利用する公共的機関)で常設展示される予定である。各州に1体の人形が割り当てられることが決定されている。

ワシントン州からは人形の申し込みを受け取っていない。州内にチルドレンズ・ミュージアムがないことを承知しているが、スポケーンかシアトルのミュージアムはどうかという案がある。貴館が答礼人形の受け入れにふさわしいと考えるなら、教えてほしい。また、貴館の情報(子ども部門や子どもたちが自由に利用できる部分の有無、年間の子どもの利用状況など)もお願いしたい。

- (4) 備 考

親善会の専用箋にタイプされている。役員や構成員の名前も印刷されており、その中には書記としてギュリックの名も見られる。

なお、Children's museumは、「子ども博物館」と訳することができるが、最近よく行われているカタカナ表記に倣った(以下、同様)。

資料2 1928年7月16日付け書簡(図6)

- (1) 差出者 学芸員 T・A・ボンサー
- (2) 宛先 メアリー・C・モファット
- (3) 内容

当館の子ども部門に日本の答礼人形を受け入れるよう要請いただき、光栄だ。この博物館は、チルドレンズ・ミュージアムとして1917年に設立された。現在、子ども部門を擁しており、蝶や木の葉化石などといったテーマをもった子どもクラブを運営している。

年度を通して多数の学級が来館し、子どもたちの入場料は無料である。年に6,000人以上もの子どもたちが来館している。

当館が答礼人形を受け入れるにふさわしいとなれば、州内の他の博物館に一定期間貸し出す意向もっている。

資料3 1928年10月18日付け書簡(図7)

- (1) 差出者 キャロライン・バー(親善会)
- (2) 宛先 学芸員 T・A・ボンサー(協会公共博物館)
- (3) 内容

返事が遅れたのは、シアトルの数名の人の間で、同地の公共図書館に代わり、答礼人形をどの施設に置くのがよいかという結論が出せなかったからである。必要な情報をすべて受け取り、それにもとづき答礼人形のうち1体がスポケーンの公共博物館で保管されることに決まった。毎年、相互の了解により、ある時期に一定の期間、シアトルの公共図書館に貸し出すことが条件となっている。

答礼人形は、7月に開かれた世界日曜学校大会に出展されたため、今はロサンゼルスにある。きょう、同地のジェームズ・ウォーレス氏(第一会衆派教会)に、答礼人形を貴館に送るよう手紙を書くつもりだ。

答礼人形たちは、6か月間ずっと、また、常に組み合わせを変えながら、各地を巡回してきたので、どの答礼人形がどこにあるのか分からない。そのため、道具類は人形の受け入れ先が決まるまで送ることができない。貴館に人形が届いた段階で、台のプレートに付けられた名前を教えてもらえれば、道具類を送ることができる。巡回中、答礼人形たちは最小限の道具類を伴っているだけで、残りは倉庫に保管されている。

近いうちに貴館に答礼人形が無事に届くだろう。

- (4) 備考

資料1と同じく、親善会の専用箋を使用。

資料4 1929年1月3日付け書簡(図8)

- (1) 差出者 助手アクロラ・グラスゴー
- (2) 宛先 ジェームズ・ウォーレス(ロサンゼルス第一会衆派教会)

(3) 大意

10月23日付けの手紙でお知らせくださったところでは、世界児童親善会ニューヨーク支部から、あなたの許で保管されている答礼人形のうち1体を当館に割り当てる旨、連絡があったところだということだった。上記の手紙の後、何もうかがっていないことをお知らせするため手紙を書いている。

私たちは、何の問題もなく、もうすぐ答礼人形を受け取れることができると期待している。

(4) 備考

差出者の所属が明示されていないが、内容から、協会の職員とみられる。

資料5 1929年1月22日付け書簡(図9)

- (1) 差出者 メイベル・ホーソン(ロサンゼルス第一会衆派教会)
- (2) 宛先 学芸員T・A・ボンサー(協会)
- (3) 内容

国際児童親善会のカロライナ・バー氏からの依頼により、きょう、貴館に「ミス徳島」という名の答礼人形を1体発送した。よい状態で届くだろう。人形を収納してあるトランクの鍵も入れてある。

人形の発送が遅れたことをお詫びする。細々としたことで多忙であったことやウォーレス氏が教会を去ったため、遅くなった。

(4) 備考

ロサンゼルス第一会衆派教会の専用箋にタイプされている。

資料6 1929年1月28日付け書簡(図10)

- (1) 差出者 キャロライン・バー(世界児童親善会)
- (2) 宛先 学芸員T・A・ボンサー(協会公共博物館)
- (3) 内容

私たちは、ロサンゼルスジェームズ・ウォーレス氏に、答礼人形を数体送るよう指示したことに大変不安を抱いている。数か月前に連絡したように、答礼人形を貴館に送るよう指示済みであり、私たちは人形の受領書と名称の連絡を待ってきた。ロサンゼルスで手間取っていたことは知っていたが、2、3日前までその原因は分からなかった。つい最近、ウォーレス氏がロサンゼルス第一会衆派教会を去り、いろいろな引き継ぎのために人形の件が遅れたと知らされている。

今朝、「ミス徳島」が1月22日に貴館に送られたという2度目の手紙を受け取った。もうすぐ、その小さなお嬢さんが無事に届くだろう。

すでにお知らせしたように、「ミス徳島」の道具類はまだニューヨークにあり、きょう、発送する準備をしている。すべて届いたという連絡をお待ちしている。連絡があれば、ギューリック博士がキャプションや徳島県知事への手紙の内容を書いてくれるだろう。

(4) 備考

資料1・3と同じく、親善会の専用箋を使用。

資料7 1929年1月29日付け書簡(図11)

- (1) 差出者 助手アクローラ・グラスゴー
- (2) 宛先 キャロライン・バー(親善会)
- (3) 内容

ちょうどロサンゼルスから「ミス徳島」という名前の答礼人形が届いたところだ。展示に必要なケースの大きさを知りたいので、道具類を入手したい。展示用のポスターの情報や提案がいただけるとありがたい。

「ミス徳島」の状態はよく、当館ではこの新着資料を誇らしく思っている。

(4) 備考

差出者については、資料4を参照。

資料8 1929年2月7日付け書簡及びキャプション原稿(図12~14)

- (1) 差出者 書記シドニー・L・ギューリック(親善会)
- (2) 宛先 T・A・ボンサー(ワシントン州スポケーン市公共博物館)
- (3) 内容

「ミス徳島」と道具類が無事に届いていることを願っている。

これら答礼人形の永久保管先に関する覚書、とくに第4及び第9パラグラフに関連して、展示に際して設置するキャプションの様式と文言の提案を同封しておく。私たちが2通りのポスターないしはキャプションを仮定していることがお分かりいただけるだろう。貴館でも満足いただける提案と思う。キャプションが離れていて読みづらいと価値を失うことに注意し、そうならないようにしてほしいとあえて申し上げる。

徳島県知事の名前は三辺長治で、住所は日本の徳島県だ。

覚書において私たちは、答礼人形を保管することになった機関の長から、人形が来た県の知事に手紙を書けば、知事はその県の子どもたちに答礼人形の最終的な住まいを伝えるだろうと提案した。その後、答礼人形がそれぞれの県を離れるときに知事が主催してお別れ会が開かれたし、人形は各州に配布されたことから、県知事への手紙は州知事が書くのがふさわしいだろうという声があったので、それも取り組むことにしたい。

答礼人形が保管されている施設やその中での人形の写真、人形の受け入れや配置を報じる新聞の切り抜きは、日本への関心をかきたてるだろう。

徳島県知事への手紙と写真の写しを送ってもらえればありがたい。

(4) 備考

資料1・3・6と同じく、親善会の専用箋を使用(図12)。キャプション原稿2枚(図13・14)が伴う。これには、答礼人形の概略について紹介されており、評価額にも言及されている。

この資料で触れられている徳島県知事三辺長治については、1927年(昭和2)5月17日に着任し、翌年5月25日、後任の山下謙一に交替している。三辺の前任者は大野緑一郎で、徳島県に「青い目の人形」が配布されたのは彼の在任期にあたる(徳島県総務部人事課編, 2011)。

資料9 1929年3月4日付け東部ワシントン州歴史協会月例評議員会議事録(図15)

(1) 概要

協会の運営に関する協議の記録である。博物館のボンサー氏から、「ミス徳島」の展示ケースが必要だという発言があり、寄付金を用いて、ガラスを2枚使ったケースを製作することが決定されたことが知られる。

資料10 1929年7月8日付け書簡(図16)

(1) 差出者 書記シドニー・L・ギューリック(親善会)

(2) 宛先 学芸員T・A・ボンサー(協会公共博物館)

(3) 内容

出版されたばかりの『友情の人形』を1冊、別封にて送る。これには、日本からアメリカにやって来て、貴館も1体所蔵している、答礼人形の冒険の話が細かく書かれている。

展示ケース内の答礼人形のそばに、口絵を開いてこの本を置いてみてはどうか。展示が分かりやすくなると思う。

(4) 備考

資料1・3・6・8と同じく、親善会の専用箋を使用。

資料11 1930年7月3日付け書簡(図17)

(1) 差出者 協会

(2) 宛先 徳島県知事

(3) 内容

答礼人形「ミス徳島」がワシントン州スポケーン市の公共博物館に収蔵されたという連絡が遅れ申し訳ない。学芸員が長く不調だったため、礼状が遅くなったことをお詫びする。

「ミス徳島」は新しく作られた専用のガラスケースに納められ、毎日、子どもからお年寄りまで、多くの観覧者に微笑みかけていることをお知らせできるのをうれしく思う。彼女は子どもたちのあこがれの的だ。日本ミッションスクールから来た教師が展示を手伝ってくれている。彼女はまた、様々な道具類の用途を書いてくれた。

先週、答礼人形の展示ケースの上に、素敵な絵を飾った。ワタナベ・オラという日本人画家が絹地に描いたものだ。彼が作品を披露したときに寄贈を受けた。当館の日本関係の展示は、これら2件である。

「ミス徳島」の家でもある博物館の写真を入れておく。ここは、4年前に亡

くなったグレース・キャンベル夫人の邸宅だった。市民団体に委ねるといふ遺志により、彼女の娘が当協会に寄贈してくれたものだ。私たちはそれを誇りに思っており、いずれは耐火性にして拡張したいと思っている。写真は木々が大きくなる前に撮ったものだ。今では道路から建物がほとんど見えないくらい、ぎっしりと葉が茂っている。

我が博物館にすばらしい贈り物をいただき、あなたと県民のみなさまに感謝の気持ちでいっぱいだ。

(4) 備考

徳島県知事宛ての礼状の控えまたは下書きであろう。このときの徳島県知事は、山下謙一である。資料8の備考を参照。

なお、「日本ミッションスクール」は原文では「the Japanese Mission」であり、日本にある布教団体の名称かもしれない。教師が所属していることから、ここではミッションスクールと理解した。

資料12 登録書 (図18)

(1) 内容

東部ワシントン州歴史協会博物館
ワシントン州スポケーン市

登録番号：0812

受領先：世界児童親善会

住所：ニューヨーク州ニューヨーク市4番街289

受領日：1929年1月29日

収集方法：寄贈

状態：良好

点数：40

評価額：200ドル

博物館目録ナンバー：(記載なし)

登録名：答礼人形(ミス徳島)と道具類

収集地：日本国徳島県

収集日：1927～1928年

収集者：(記載なし)

同定者：(記載なし)

交換資料：(記載なし)

備考：日本の子どもたちから米国の子どもたちに贈られた58体の人形の一つ

承認：1930年7月3日

資料 13 新聞記事 (図 19)

(1) 概要

書き込みから 1929 年 2 月 17 日のものとみられる。スポケーンの協会博物館（キャンベル博物館）に「ミス徳島」が到着したことを報じているもの。答礼人形全般についての解説も詳しい。

若干の所見

以上に紹介した資料から、「ミス徳島」を協会が収蔵するに際しての親善会との連絡内容を中心とした状況が知られた。

従来、「ミス徳島」が MAC の前身に収蔵されたのは、ワシントン州で唯一子ども部門を有していたからではないかという推測がなされてきた（高岡，2004）が，書簡からそれが推測というレベルではなく事実として認定できるであろう。

また，答礼人形が米国内を巡回したことや道具類が分離保管されたこと，ロサンゼルス第一会衆派協会の発送担当者の辞職などから，最終的な収蔵先に落ち着くまでに混乱があったことがうかがえたことも興味深い。

というのは，協会博物館に収蔵され，MAC が今も受け継いでいる「ミス徳島」は，本来は「ミス岐阜」だったことが知られているからである²⁾（高岡，2004；徳島平和ミュージアムプロジェクト実行委員会編，2010）。展示に際して確認したところでは，道具類や台は当初から「ミス徳島」に付属したものであったから，人形とそれ以外の組み合わせが乱れているのである。人形の取り違えは「ミス徳島」の場合だけではないことから，配布時の混乱が大きかったものと思われる。

注

- 1) 2010 年に「ミス鳥取」と関係地不明のもの（平田郷陽作）が発見され，続いて 2012 年には「ミス宮崎」が発見された。なお，「ミス宮崎」の情報は MAC から提供されたものである。
- 2) 2012 年に発見された「ミス宮崎」の写真を，1927 年の「ミス徳島」関係資料（徳島平和ミュージアムプロジェクト実行委員会編，2010）と照合すると，顔や着物の柄から，人形自体は本来の「ミス徳島」と判断できる。この人形は現在，ミネソタ州ヘネピン中央図書館の所蔵となっている。

謝 辞

MAC には，資料を紹介する意義を認めていただき，本稿での使用を快くご了解いただいた。資料の入手を含めて「徳島平和ミュージアムプロジェクト」には，学芸員のバレリー・ウォール氏はじめ，同館スタッフの多大なご協力をいただいた。

また，英文の解釈については，米国在住の大原京子氏・小百合氏に多くのご教示をいただいた。お二人の力添えなしには，この資料紹介はなしえなかった。

以上，記して心からお礼申し上げます。

参考文献

- アリス里帰り推進委員会編．1991．Alice : Friendships are forever. 30p. アリス里帰り推進委員会，神山．
- 原田一美．2009．青い目の人形：海を渡った親善人形と戦争の物語．229p. 未知谷，東京．
- 針谷浩一．2001．日本からの親善使 答礼人形写真集．37p. 針谷浩一，大宮．
- 是澤博昭．2010．青い目の人形と近代日本．264p. 世織書房，横浜．
- 高岡美知子．2004．人形大使：もうひとつの日米現代史．428p. 日経BP社，東京．
- 徳島平和ミュージアムプロジェクト実行委員会編．2010．海を渡った人形と戦争の時代．13p. 徳島平和ミュージアムプロジェクト実行委員会，徳島．
- 徳島平和ミュージアムプロジェクト実行委員会編．2011．徳島平和ミュージアムプロジェクト報告書．110p. 徳島平和ミュージアムプロジェクト実行委員会，徳島．
- 徳島県総務部人事課編．2011．徳島県職員録 平成23年版．12+331+81p. 徳島県，徳島．
- 答礼人形「ミス三重」の里帰りを実現させる会編．2009．82年のときを刻んで一人形大使「ミス三重」．68p. 答礼人形「ミス三重」の里帰りを実現させる会，津．



図1. 徳島県立博物館で展示されたミス徳島（向かって右の日本人形）. 左側に展示されているのは、徳島県に唯一残っている「青い目の人形」アリス.



図2. MACの中心施設の外観.



図3. キャンベル邸.



図4. 「ミス徳島」関係資料を取り出したところ.

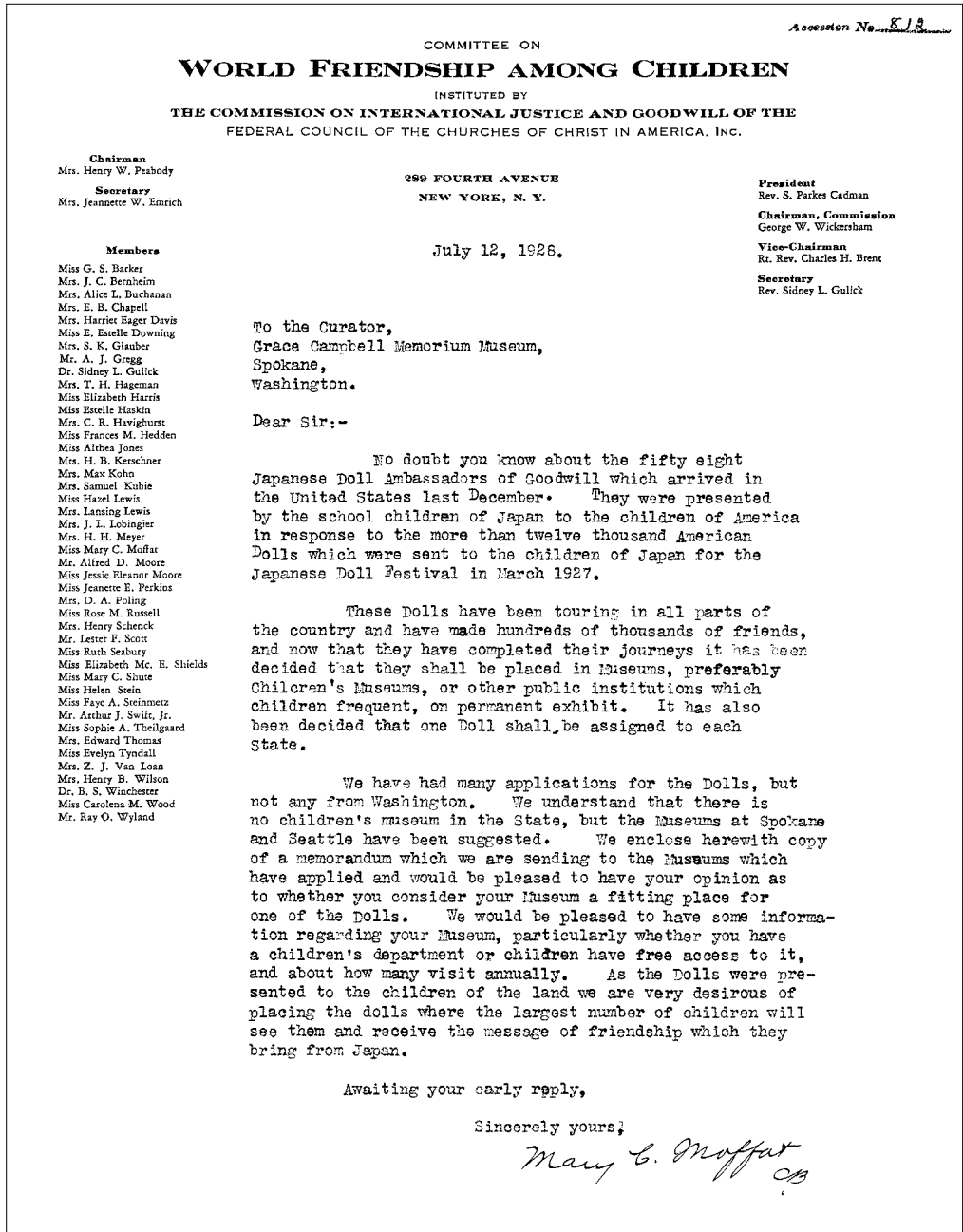


図5. 資料1 (1928年7月12日付け書簡)

Association No. 812

July 16, 1928

Miss Mary C. Moffat,
289 Fourth Ave.,
New York, City, New York

Dear Madam:

Your favor of July 12 received. We shall be glad to meet with the requirements necessary to receive one of the Japanese Doll Ambassadors for the Children's Department of our Museum.

This Museum was organized in 1917 as a Children's Museum, and we maintain a childrens section in it today. We have been maintaining childrens clubs, such as Butterfly Clubs, Fossil-leaf Clubs, etc.,

Classes of school children visit the Museum frequently during the school year and the Museum is free to children at all times. Over 6000 children yearly visit our Museum.

If we are fortunate enough to get the Japanese Doll we shall be willing to loan it for several months to the other Museums of the state if they so desire.

Very respectfully,

F. A. Bonser, Curator

TAB:AG

図6. 資料2 (1928年7月16日付け書簡)

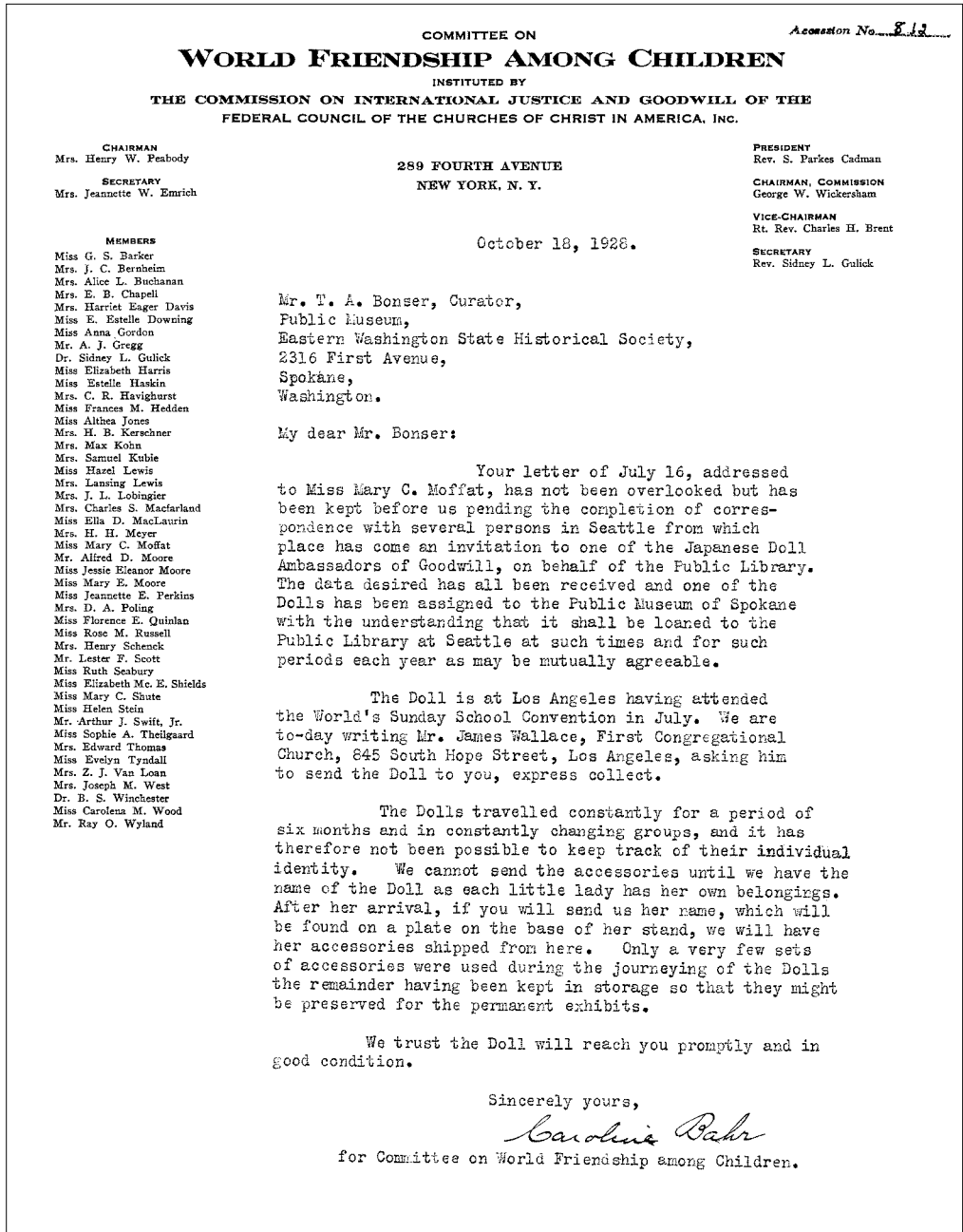


図7. 資料3 (1928年10月18日付け書簡)

File No. 8-14

Jan. 3, 1929

Mr. James Wallace, Sect.,
The First Congregational Church,
845 South Hope Street,
Los Angeles, California.

My dear Mr. Wallace:

Your letter of October 23rd., stating that you had just received word from the New York office on World Friendship Among Children that they were assigning one of the Japanese Doll Ambassadors, in your possession, to us, has been called to my attention. Fearing that you had overlooked the matter we are writing to let you know that nothing has been heard from it since your letter of above date. stating that we were to receive the doll.

We trust that nothing has happened and that we will soon get the Japanese Doll.

Yours very truly,

Miss Arcola Glasgow, Asst.

図8. 資料4 (1929年1月3日付け書簡)

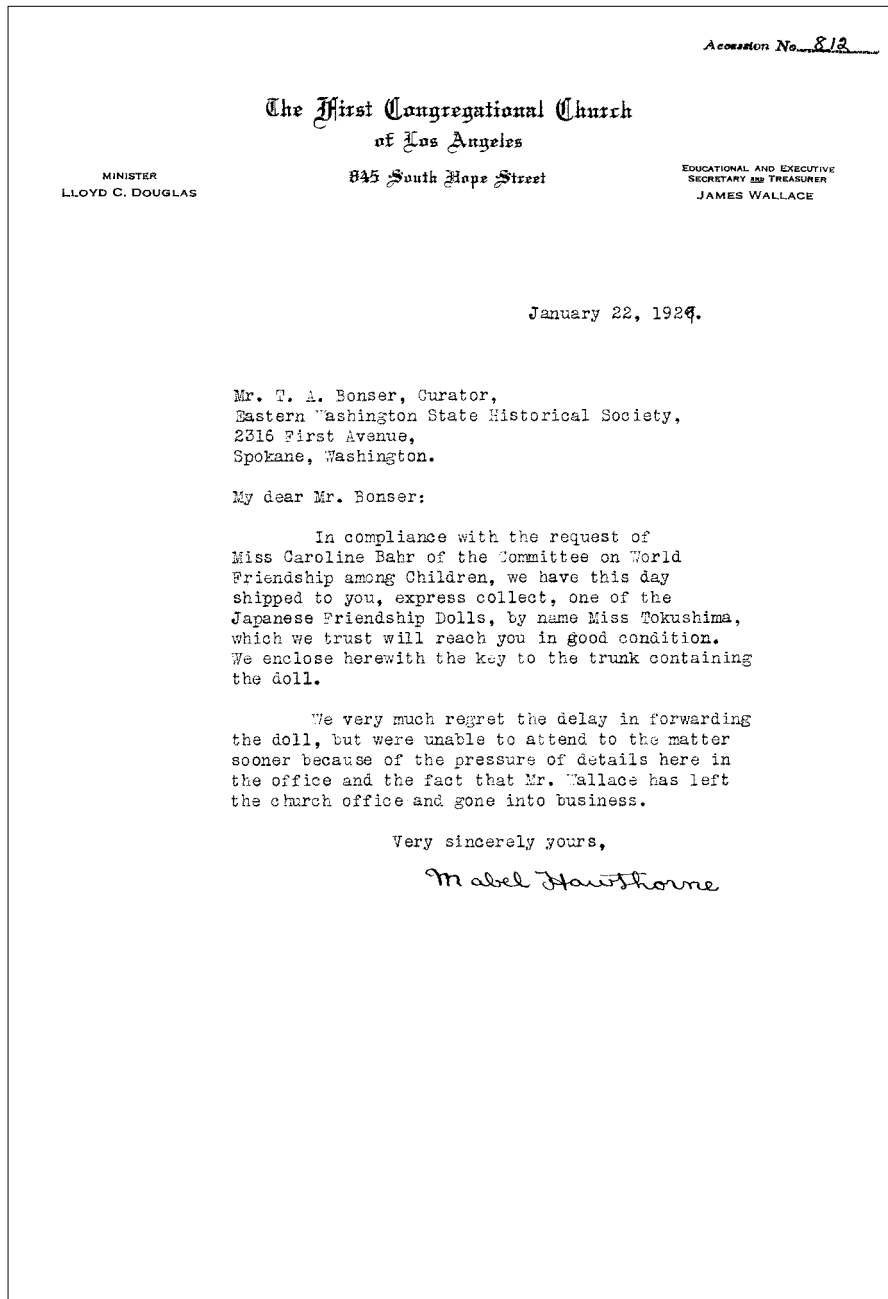


図9. 資料5 (1929年1月22日付け書簡)

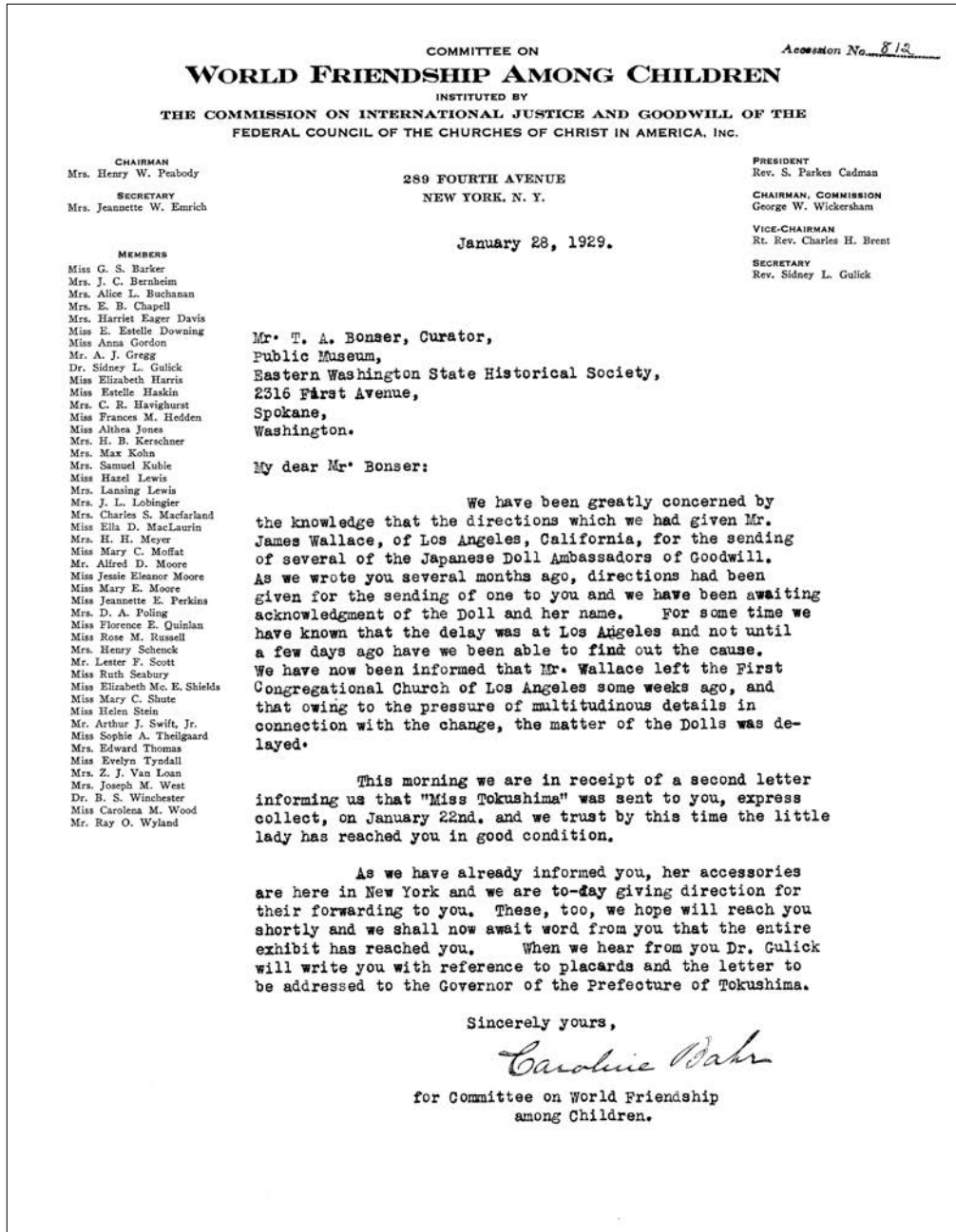


図 10. 資料 6 (1929 年 1 月 28 日付け書簡)

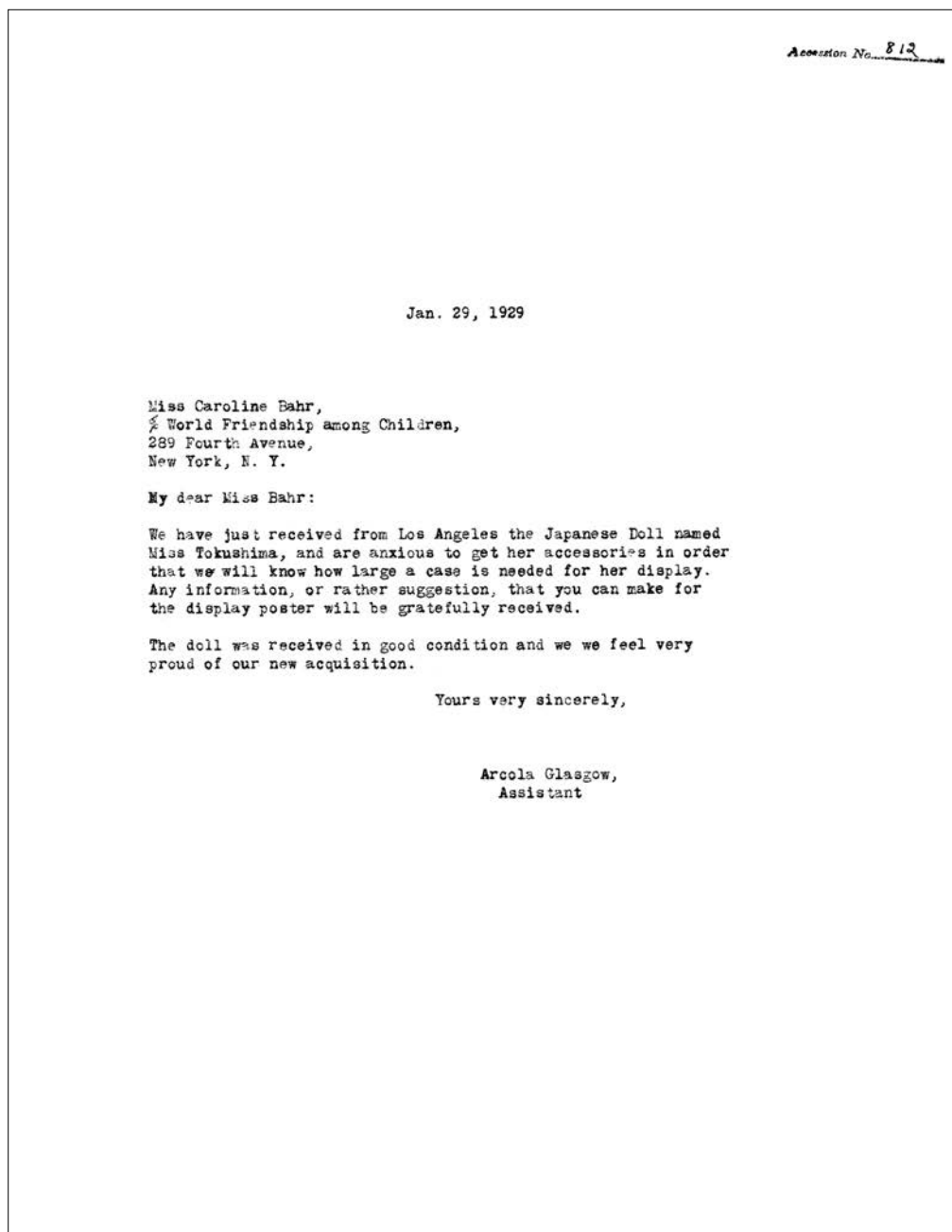


図 11. 資料 7 (1929 年 1 月 29 日付け書簡)

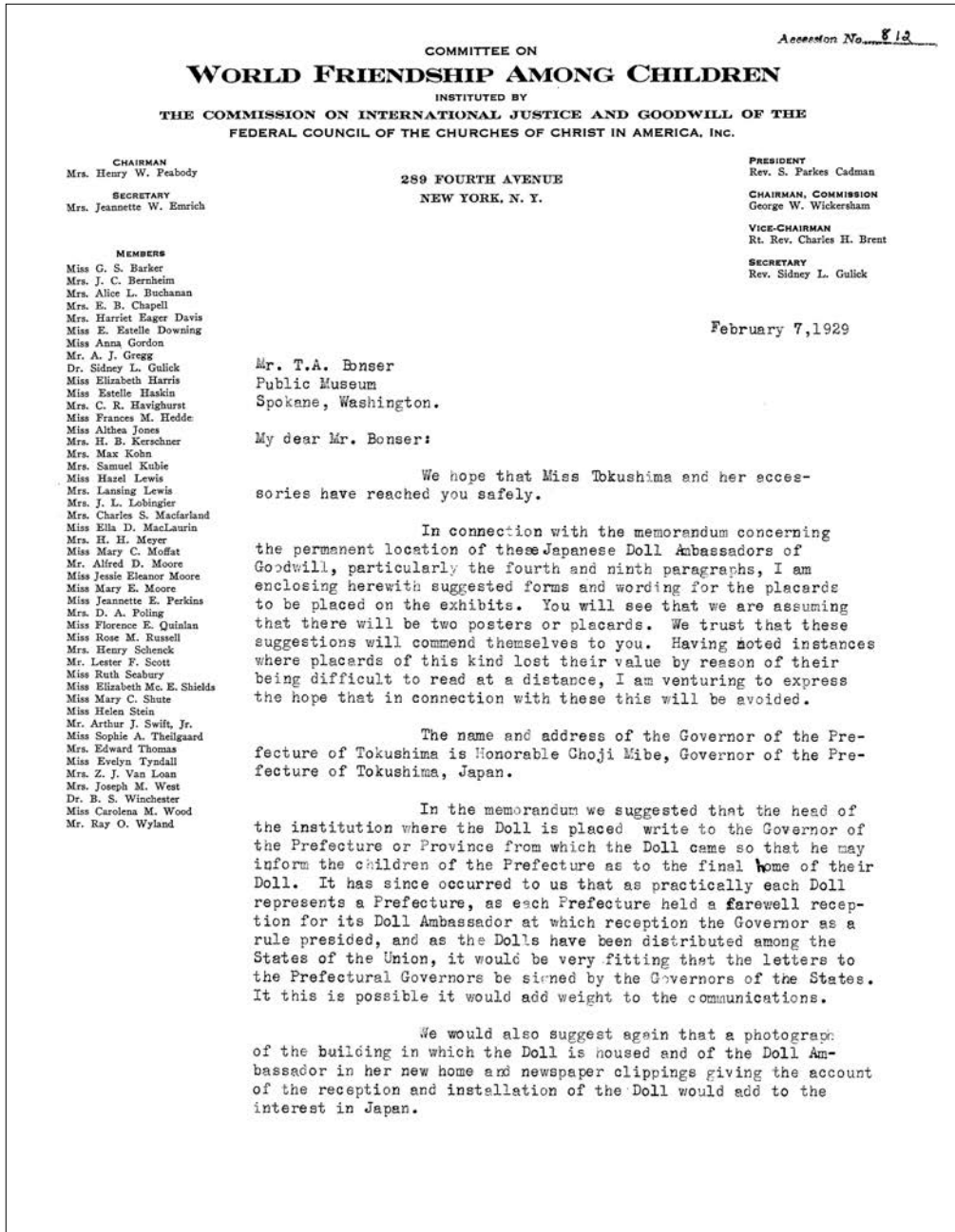


図 12-1. 資料 8 (1929 年 2 月 7 日付け書簡 1 枚目)

Accession No. 813

-2-

We would very greatly appreciate it if we might have copies of the letter addressed to the Governor of the Prefecture of Tokushima and of the photographs sent to Japan.

Sincerely yours,

Sidney L. Gulick
Secretary

図 12-2. 資料 8 (1929 年 2 月 7 日付け書簡 2 枚目)

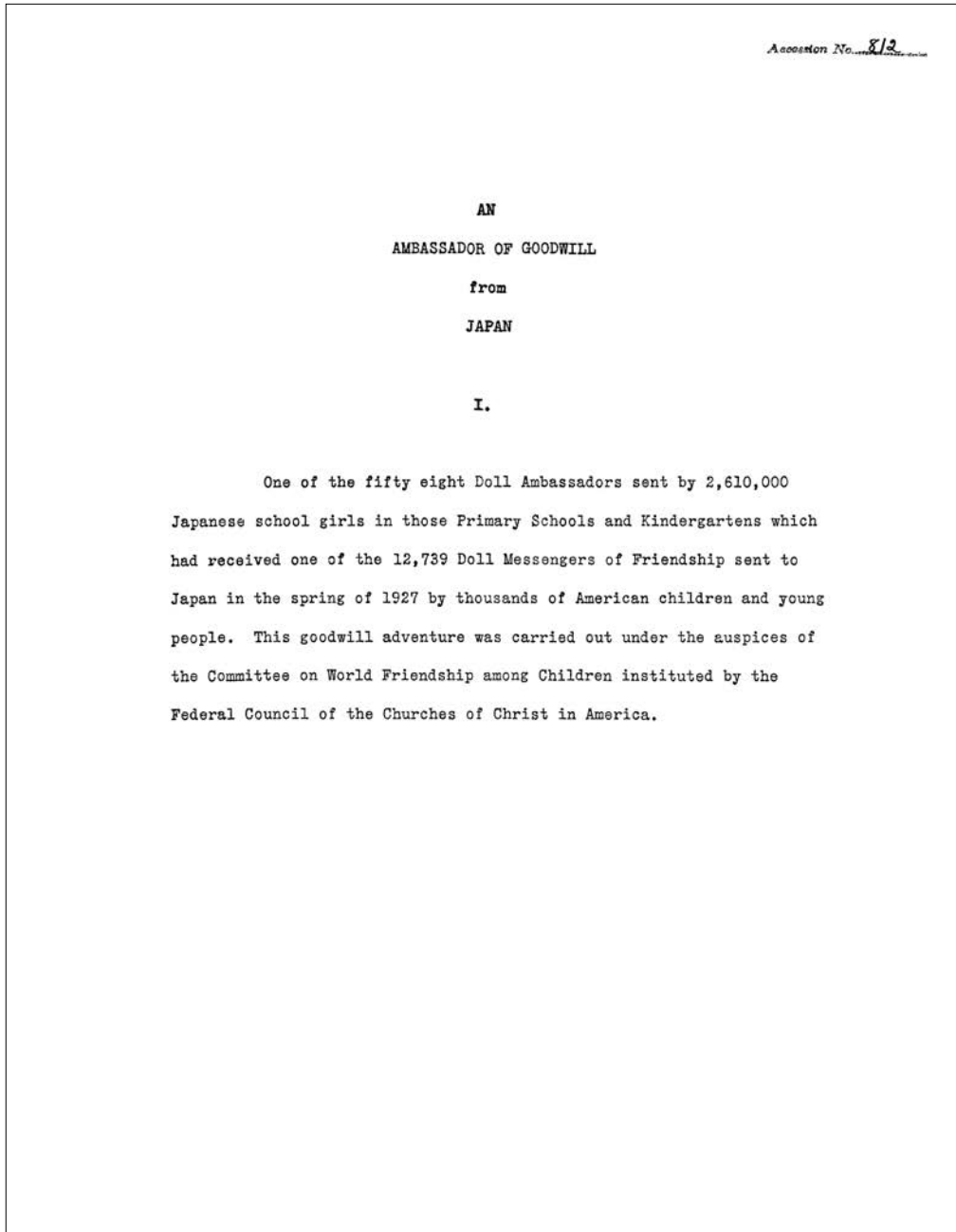


図 13. 資料 8 (キャプション原稿 1)

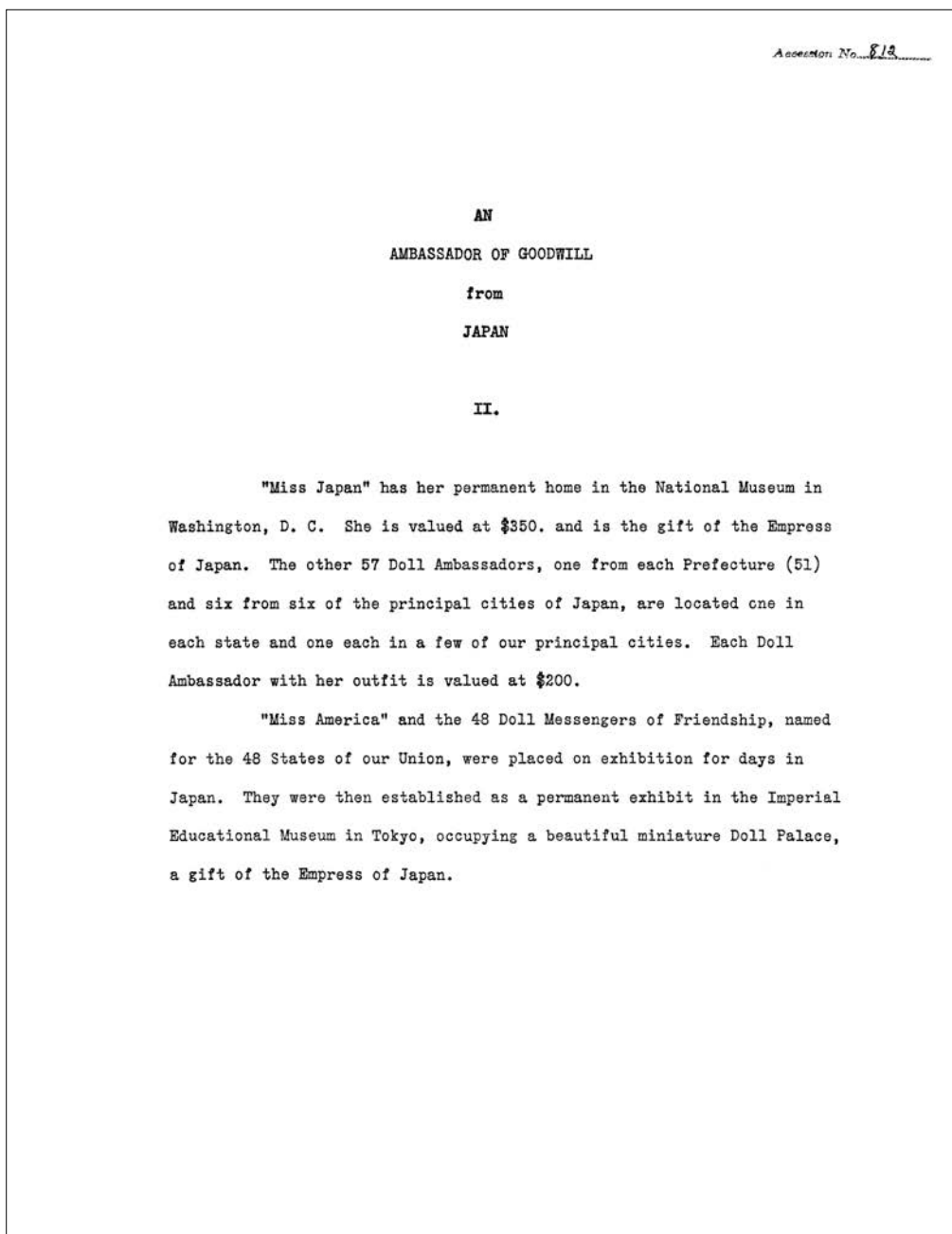


図 14. 資料 8 (キャプション原稿 2)

H9980c

EWSHS Board of Trustees Records, Box 1.

51

March 4, 1929

Minutes of the regular monthly Board meeting of the Eastern Washington State Historical Society, held at the Model Cafe, March 4, 1929.

The president, Mrs. Wm. C. Ramage, presided. Other members present were Mrs. Agnes McDonald, Mrs. H. G. Ferris, Miss Glasgow, A. L. White, Joel E. Ferris, Alex Turnbull, Dr. A. M. Meldrum, D. T. Ham, John LaRue, W. B. Chandler, J. W. Duncan, W. T. Triplett, Dr. S. E. Lambert, and T. A. Bonser. Chas. O. Fernquist, curator of mineralogy was also present.

In the absence of the secretary, the minutes of the previous meeting were read by Miss Glasgow. It was voted that they be approved.

Mr. Triplett, treasurer, read the financial statement and list of current bills as follows:

In Bank Feb. 1, 1929	\$ 666.89
Checks written for current expenses	<u>492.85</u>
	\$ 174.04
Amt. banked from membership dues	<u>21.00</u>
TOTAL AMOUNT IN BANK FEB. 28, 1929	195.04

CURRENT EXPENSES

George Encheff	\$ 100.00
Arcola Glasgow	85.00
Washington Water Power Co.	14.75
Home Telephone & Telegraph Co.	5.75
Spokane Toilet Supply Co.	1.10
W. P. Fuller & Co.	8.25
John W. Graham & Co.	1.15
C. O. Fernquist (postage & express)	<u>6.52</u>
TOTAL	\$ 222.52

It was voted that the report be approved and the current bills as read be paid. *Motion made and seconded that the salary of Miss Glasgow, assistant secretary, be increased \$5.00 a month. Carried.* Mr. Bonser, speaking for the museum committee, stated that Mr. Sloanaker would collect bird specimens for the museum if the Society would pay for the hunter's license, which would be about seven dollars. It was voted that we secure a hunter's license for Mr. Sloanaker.

The need for a small case to display the Japanese Doll and her accessories was also stated by Mr. Bonser. Mr. Fernquist had estimated the cost to be \$41.57,--his work gratis. After some discussion it was moved and seconded that the board grant Mr. Fernquist permission to construct the case making use of Dr. Meldrum's donation of two plate glass windows.

Mr. Chandler, chairman of the legislative committee, reported that Miss Hurn and Mr. Anderson had both been unable to get our request for an appropriation through their committees and that things were not looking any too bright for us in Olympia.

図 15-1. 資料 9 (1929 年 3 月 4 日付け東部ワシントン州歴史協会月例評議員会議事録 1 枚目)

52

Mr. Ham suggested that at least three persons be picked from the House and Senate and communicated with by a night letter framing a real appeal for an appropriation. Moved and seconded that Mr. Chandler, D. T. Ham and W. T. Triplett prepare and send a wire to the key men in the House and Senate. Motion carried.

Mr. Duncan moved that we allow the Sportsman Fair Committee to borrow some guns and knives from our collection. Motion seconded and carried.

It was voted that our April meeting be held at the Museum the first Monday evening in April; the membership and their friends to be invited.

The standing committees were appointed by the President.

Meeting adjourned.

A true record.

President

Attest:

Secretary

図 15-2. 資料 9 (1929 年 3 月 4 日付け東部ワシントン州歴史協会月例評議員会議事録 2 枚目)

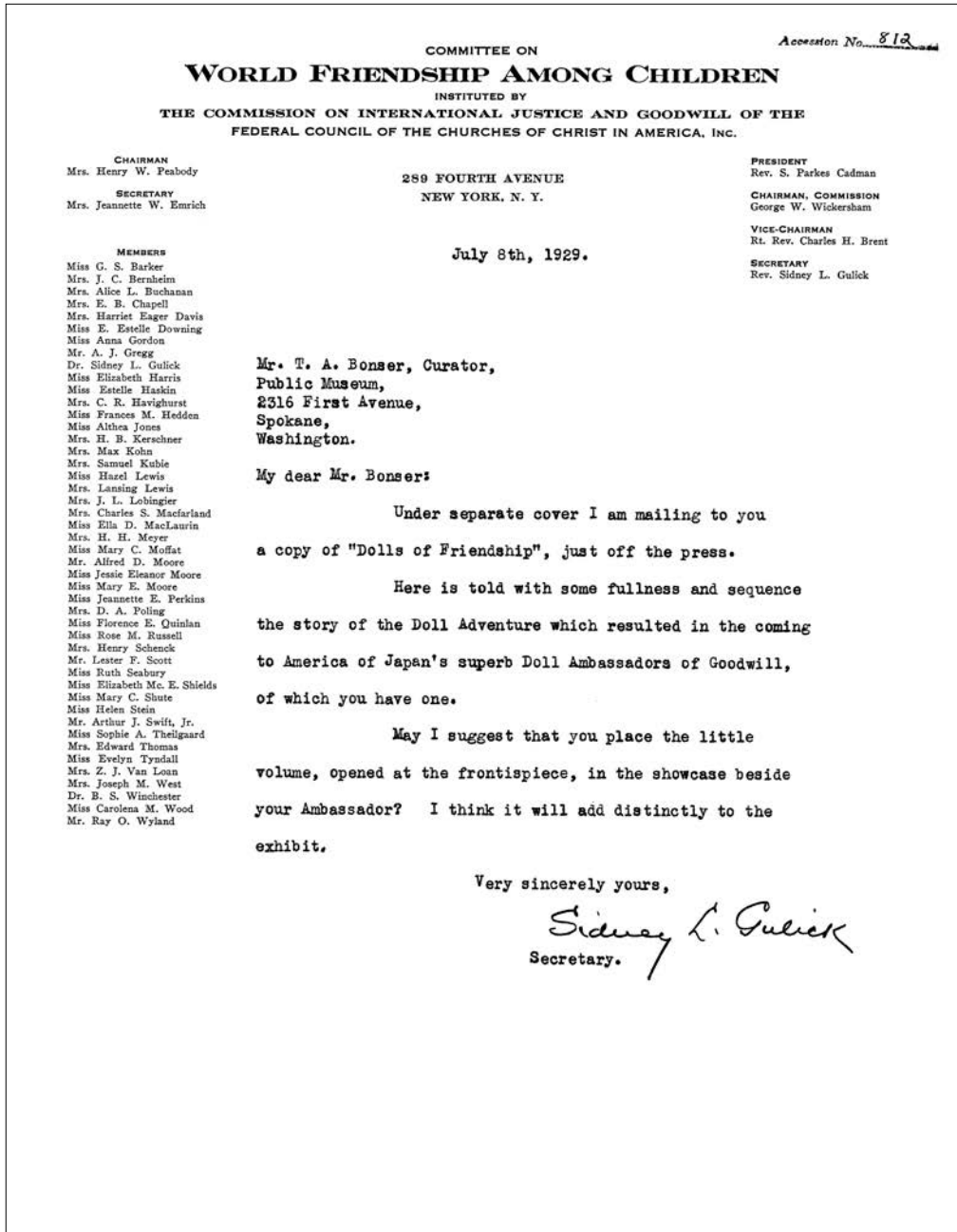


図 16. 資料 10 (1929 年 7 月 8 日付け書簡)

Accession No. 812

July 3, 1930.

To the Governor,
Province of Tokushima,
Japan.

Honorable Governor:

We sincerely regret the delay in acknowledging the receipt of Miss Tokushima, the "Friendship Doll" sent to the Public Museum at Spokane, Washington. Owing to the long illness of our curator many things of importance have been overlooked for a lack of time and help. We are very sorry that your letter of thanks had to suffer postponement.

We are very glad to inform you that Miss Tokushima has had a new plate glass case constructed for her and that she smiles at many visitors, both young and old, each day. She is the envy of many a child. A teacher from the Japanese Mission here came down to help us arrange the material in the case. She also described the uses of the various articles.

This last week we hung a beautiful painting over the doll case. It was done by your artist, Ora Watanabe, and is painted on silk. The art piece was given to us by the artist while he was here demonstrating his work. These two exhibits comprise our Japanese exhibit.

We are enclosing a small picture of the Museum Home of the Friendship Doll. This was the residence of Mrs. Grace Campbell until her death four years ago. It was her wish that the home go to some civic organization, so thru her daughter the Eastern Washington State Historical Society was given the building. We are very proud of it and have hopes of some day enlarging it with a fire-proof unit. The enclosed picture was made of a print taken years ago before the trees were grown,--now one can hardly see the house from the street on account of the dense foliage.

We send our most sincere thanks to you and your people for this wonderful gift to our Museum.

Yours very truly,

Eastern Wash. State Hist. Society.

図 17. 資料 11 (1930 年 7 月 3 日付け書簡)

SPOKANE - MUSEUM - EXHIBITS -
ACCESSION'S -
EXHIBITS DOLL'S

#812

RE MUSEUM

Japanese Doll Gets Permanent Home

JAPANESE DOLL AMBASSADOR

1929

*For Deer Show
June 30th 1979
Asajiro Hotel*

*Tokushima
Prefecture - on
the island of
Shikoku?
Ku*

*#812
Japanesemuseum*

Plants Japanese

Shikoku is her home

JAPANESE DOLL PRESENTED CITY

Miss Tokuhima, Gift From Children of Japan, Will Occupy Home Built for Her.

AT CAMPBELL MUSEUM

Little Visitor Brought Her Dainties—Neatly Equipped.

A distinguished official here is Miss Tokuhima, ambassador to the state of Washington from Japan, who is to have her permanent home in the new building. The large enough to house her and her accessories is being built for her in the city museum at the Grace Campbell Memorial building.

thought it would be at least two weeks before Miss Tokuhima is ready to leave her permanent home in Japan. She is the most eager to secure the little ambassador for Spokane and expressed his delight yesterday that the commission having charge had selected Spokane of the three cities in Washington for her permanent home.

One of 58 Good-Will Ambassadors.

Miss Tokuhima, elegantly dressed and splendidly outfitted, is one of the 58 Good-Will Ambassadors who will, to come to America, bringing the friendly greeting of the children in the primary and kindergarten schools, which had received a letter last July from the Japanese government in Tokyo.

spring of 1927 by thousands of American children, are now reciprocating their friendly greetings and ten thousand children of Japan contributed their pennies to make the country and have now been touring in all parts of the United States.

recognition," Mr. Bower said.

home in the national museum in Washington, D. C. She is valued at \$500 and is the gift of the Japanese government.

ambassador, of which Miss Tokuhima is one, comes from the several municipalities of Japan. She is one of six of the principal cities. They are: Tokyo, Osaka, Yokohama, Kobe, and Nagasaki.

Picture of Esquisite Beauty.

Miss Tokuhima is a creature of exquisite beauty, 32 inches tall, and is completely outfitted to take up her residence here. Her outfit of gold and silver, tiny little mirrors and glasses, consists of everything on a standard of lacquer inlaid with traveling cases of lacquer to match. She has been supplied with parasol, stands on a little dais, which adds to her beauty. Her outfit is supported by a metal rod at the back, which grips her obi (sash).

The Japanese children also, with their tiny tea things, and Miss Tokuhima comes equipped with all that she needs for her stay in Spokane. There are two kinds of tea sets used, one for the ordinary tea party and set for more elaborate. The ceremonial tea is served in accordance with certain customs in comparison with our method.

Her accessories include also little cases for her jewelry and two etiquette to advise how to properly handle the tiny little cups and saucers.

Japan Teacases American Gift.

Miss America and 48 doll messengers of friendship named for the 48 states in the month of 1927, were placed on exhibit for days in Japan.

then established as permanent exhibition in Tokyo, occupying a beautiful miniature doll palace, the good will adventures was carried out under the auspices of the committee organized by the Federal Council of Churches of Christ in America.

Tokuhima, for which the little ambassador to Washington is named, is Honorable Choji Hino.

SM 2-17-51

Miss Tokuhima, doll ambassador to the state of Washington from Japan, who is to have her permanent home at the Emerson Washington State Historical Society's museum, 52310 First. The distinguished looking young lady is seated at a table with her tea set. The table is set with a variety of articles, including a lacquer chair and a standing table.

図 19. 資料 13 (新聞記事)